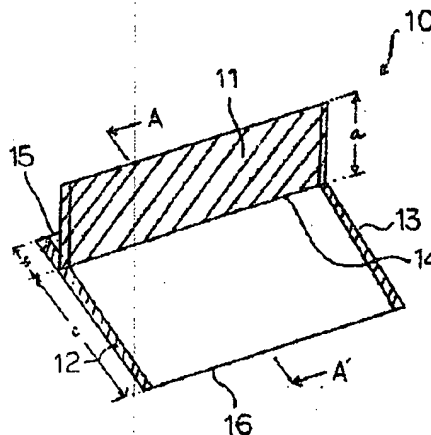


Patent Abstracts of Japan

TITLE : PACKAGING BAG HAVING DISPLAY EFFECT



COPYRIGHT: (C)2002,JPO

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-145281

(P2002-145281A)

(43) 公開日 平成14年5月22日 (2002.5.22)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 5 D 33/00

識別記号

F I

B 6 5 D 33/00

サーチコード* (参考)

A 3 E 0 6 4

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2000-338860 (P2000-338860)

(22) 出願日 平成12年11月7日 (2000.11.7)

(71) 出願人 000003193

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1丁目5番1号

(72) 発明者 佐藤 宏光

東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印

刷株式会社内

Fターム(参考) 3E064 AA03 AA08 BA01 BA22 EA30

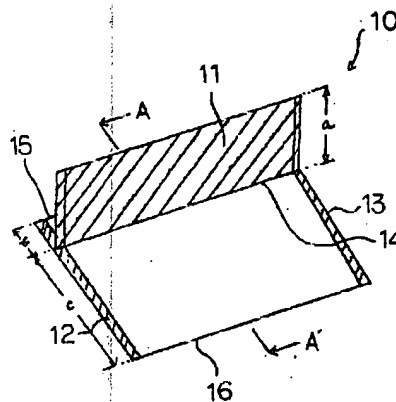
FA01 GA02 HA06 HB05 HN05

(54) 【発明の名称】 ディスプレイ効果を有する包装袋

(57) 【要約】

【課題】背貼りシールにデザイン上に効果を持たせて背貼り部分を広く大きくとり、背貼り位置の角度を変えて立体的なデザイン化を可能にした合掌貼り形式の包装袋を提供すること。

【解決手段】一枚のフィルムの両端縁を背貼りして、上下端を接着封止してなる合掌貼り形式の包装袋であって、背貼りシール(11)の幅(a)は、背貼りシール折り返し縁(14)から包装袋(10)の一方の折り曲げ縁(15)までの長さ(b)と同等に、若しくは長く設定されている。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】一枚のフィルムの両側端を背貼りして、上下端を接着封止して成る合掌貼り形式の包装袋であって、背貼りシールの幅は、背貼りシール折り返し線から包装袋の一方の折り曲げ線までの長さと同様、若しくは長く、設定されていることを特徴とするディスプレイ効果を有する包装袋。

【請求項2】前記背貼りシール折り返し線から包装袋の一方の折り曲げ線までの長さは、背貼りシール折り返し線から包装袋のもう一方の折り曲げ線までの長さよりも短く設定されていることを特徴とする請求項1記載のディスプレイ効果を有する包装袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はプラスチックフィルム、紙等の軟包装材料から構成されたディスプレイ効果を有する包装袋に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、プラスチックフィルム、紙等の軟包装材料から構成され、一枚のフィルムの両側端を背貼りして、上下端を接着封止して成る合掌貼り形式の包装袋が使用されている。

【0003】そして、合掌貼り形式の包装袋の背貼りシールに、例えば、実開平4-74639号公報に開示されているような、開封し易さの機能を持たせたり、あるいは特開平9-121249号公報に開示されているような、蒸気通路の機能を持たせたりするものであって、合掌貼り形式の包装袋の背貼りシールにデザイン上の機能を持たせた包装袋は存在しなかった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、合掌貼り形式の包装袋の背貼りシールにデザイン上の機能を持たせて、背貼り部分を広く大きくとり、背貼り位置を変えて立体的なデザイン化を可能にした合掌貼り形式の包装袋を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1の発明は、一枚のフィルムの両側端を背貼りして、上下端を接着封止して成る合掌貼り形式の包装袋であって、背貼りシールの幅は、背貼りシール折り返し線から包装袋の一方の折り曲げ線までの長さと同様、若しくは長く、設定されていることを特徴とするディスプレイ効果を有する包装袋である。

【0006】このように、背貼りシールの幅は、背貼りシール折り返し線から包装袋の一方の折り曲げ線までの長さと同様、若しくは長く、設定されているので、背貼りシール部分にデザインを施し、かつ、背貼りシールを立ち上げると背貼りシールは、平面的なデザインを立体的に見せることができる。

【0007】また、請求項2の発明は、請求項1の発明

において、前記背貼りシール折り返し線から包装袋の一方の折り曲げ線までの長さは、背貼りシール折り返し線から包装袋のもう一方の折り曲げ線までの長さよりも短く設定されていることを特徴とするディスプレイ効果を有する包装袋である。

【0008】このように、背貼りシール折り返し線から包装袋の一方の折り曲げ線までの長さは、背貼りシール折り返し線から包装袋のもう一方の折り曲げ線までの長さよりも短く設定されているので、背貼りシールを立ち上げれば、背貼りシールは包装袋に埋没することなく、より立体的に見せることができ、ディスプレイ効果がさらに向上する。

【0009】

【発明の実施の形態】本発明のディスプレイ効果を有する包装袋の実施形態を図面に基いて詳細に説明する。

【0010】図1は本発明のディスプレイ効果を有する包装袋の概略を示す斜視説明図であり、図2は、そのA-A'線断面説明図である。本発明のディスプレイ効果を有する包装袋は、一枚のフィルムの両側端を背貼りシール(11)して、上下端を上部シール(12)と下部シール(13)により接着封止して成る合掌貼り形式の包装袋(10)である。

【0011】上部シール(12)と下部シール(13)は背貼りシール(11)に対して垂直に位置し、背貼りシール(11)は従来の背貼りシールに比較して幅が広く作られている。

【0012】すなわち、背貼りシール(11)の幅(a)は、背貼りシール折り返し線(14)から包装袋の一方の折り曲げ線(15)までの長さ(b)と同様、若しくは長く、設定されている。

【0013】また、背貼りシール折り返し線(14)から包装袋の一方の折り曲げ線(15)までの長さ(b)は、背貼りシール折り返し線(14)から包装袋のもう一方の折り曲げ線(16)までの長さ(c)よりも短く設定されている。

【0014】つまり、さらに具体的な数値をもって示すならば、背貼りシールの幅(a)は、一般的には10mm以下のところを50mm程度まで広げ、背貼りシールを中央でなく、どちらか一方の折り曲げ線寄りにずらして設ける。そして、この背貼りシール面にデザイン化することと、背貼りシールを立ち上げることににより、デザインを立体的に見せることが可能になる。

【0015】使用するフィルムは、内面がヒートシール性を有するフィルムである必要があり、積層フィルムが好ましく使用できる。例えば、二軸延伸ポリプロピレン(OPP)フィルム(20 μ m)/接着剤/印刷層/未延伸ポリプロピレン(CPP)フィルム(20 μ m)、ポリエチレンテレフタレート(PET)フィルム(12 μ m)/接着剤/印刷層/CPPフィルム(20 μ m)等を例示することができる。

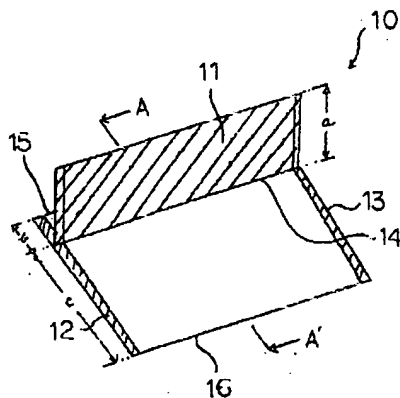
【0016】

【発明の効果】上記のように本発明の包装袋は、背貼りシールがある面を表側にして、かつ、背貼りシールを中央から片側にずらしてシール幅を広くすることにより、デザイン展開上、シール幅分デザインを広く大きく見せることができる。また、背貼りシールを立ち上げることにより、通常平面でしか見られなかったデザインを側面から視界を有することもでき、デザインを立体的に見せることができる。さらに、縦型又は横型のピロータイプ自動包装充填機でも作業ができるので、従来の包装袋と同等の作業性が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のディスプレイ効果を有する包装袋の概略を示す斜視説明図である。

【図1】



【図2】図1のA-A'線断面説明図である。

【符号の説明】

- 10・・・包装袋
- 11・・・背貼りシール
- 12・・・上部シール
- 13・・・下部シール
- 14・・・背貼りシール折り返し線
- 15・・・包装袋の一方の折り曲げ線
- 16・・・包装袋のもう一方の折り曲げ線
- a・・・背貼りシールの幅
- b・・・背貼りシール折り返し線から包装袋の一方の折り曲げ線までの長さ
- c・・・背貼りシール折り返し線から包装袋のもう一方の折り曲げ線までの長さ

【図2】

